

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 5 月 9 日現在

機関番号：32402

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2013～2016

課題番号：25580134

研究課題名(和文) 生み出せ！自立学習者 多読・多聴活動を豊かにするシステム開発の構築

研究課題名(英文) System development for learners' autonomy to support extensive reading and listening activities

研究代表者

川村 明美 (Kawamura, Akemi)

東京国際大学・言語コミュニケーション学部・教授

研究者番号：30326996

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、英文を読む楽しさが増すようなデジタル教材を開発し、学習者が多読活動を通して自己努力を続けたり、動機づけをしたりすることである。そのシステム構築の中心となる機能は、学習者が自分の未知語を「My未知語リスト」として保存できることであるが、日本人英語学習者用に作られた学習者語彙リストJACET8000を搭載したことにより、学習者は未知語とJACET8000の語彙リストとの関連が分かり、自己の語彙レベルも認識して語彙学習への意欲を高める可能性にもつながった。

研究成果の概要(英文)：Japanese learners of English often learn new words through studying English with a textbook, and the words to be learned, which are often called “new” words, are already chosen by the textbook writer. The purpose of this research is to facilitate learners’ autonomous learning and support extensive reading activities by developing a digital device that enhances learners’ joy for reading. The main aspect of the system involves a “My New Word List” function which helps learners make a list of new words while they read. This is not a ready-made list of new words presented in a textbook, but a list that learners make by their own choice. With this function, they can read the story without stopping to consult the unknown words in a dictionary. The system features an uploaded version of the JACET 8000 word list, which is a recommended list of words for Japanese university students. This enables learners to check their unknown words instantly if they are included in the list.

研究分野：英語教育

キーワード：未知語 読む速さ ebook 語彙レベル 自律・自立 フォニックス

1. 研究開始当初の背景

(1) 自立/自律した学習者を育てるためには、多読(多聴)活動を通して input の量を多くする必要があり、多読活動が語彙力をつける効果は、多くの教師が認めている。しかし、学習者は多読活動に慣れていないために、未知語は常に辞書を引く必要があり、語彙の増やし方は学習者にまかされていて、教師は何語読んだかの確認で終わっていることが多い。そこで、日本人学習者に、語彙力習得のストラテジーを授業中に教えることで、学習者が多読(多聴)教材を利用し、授業外の時間を使って効果的に語彙力強化ができるプログラムを開発できないかと考えた。

(2) 授業中に多読(多聴)教材の一部を使い、未知語に印をつけられるソフトがあれば、教師は学習者の未知語記録がとれ、どのような語彙であるのかを知ることができ、そのデータは教員の新たな教材開発に資することにもつながる。学習者にとっても辞書を多用せずに、多読を通して語彙学習ができる多読学習ストラテジーを身に付けることができる。しかしながら、このようなソフトはまだ見当たらなかったため、開発の必要性を痛感した。

2. 研究の目的

(1) 多読(多聴)活動中、学習者の未知語の確認をするとともに、学習者の学習プロセスを認識しながら研究を進めることで、多読や多聴活動が効果的に語彙力増強につながるのかを検証する。

(2) 学習者が授業で使っている教材(リーディングのパッケージまたは音声教材の場合はトランスクリプト)や多読用の教材をコンピュータ上で読みながら、意味がまったく推測できない単語、推測できるがぼんやりとした意味しか分からない単語などを弁別しながらクリックして読み進めることで、学習者が分からない単語をどのように処理しているかを明らかにする。

(3) ソフト開発により、学習者の現在の語彙力や語彙学習法を教員が理解し、学習者の未知語情報をもとに、語彙学習活動や推測して読む方法を身に付けさせるための教材開発につなげ、語彙習得のための学習ストラテジーを授業で教え、学習者の学びの変化を確認する「学習者ニーズに応じた指導方法とその検証」の構築を目指す。

3. 研究の方法

多読や多聴、語彙学習に関する先行研究を検証するとともに、リーディング・リスニング教材から学習者の未知語データを収集し、語彙習得のための学習ストラテジーを検討する。

(1) 未知語をデータベース化できるソフト開発に取り組み、システムの検証実験を実施する。

(2) 英文パッケージを入力しさえすれば、学習者が未知語をクリックするだけで、単語のリストが保存されるようにする。さらに単語フラッシュカードソフトと組み合わせて学習者の記憶力を上げ、確実に語彙を増やすことが可能な e-learning システムを構築する。

(3) 実施した調査・実験結果を総合的に分析・考察して、最終的なまとめを行い、今後の多読・多聴・語彙教育の発展に関する示唆も検討する。なお、本研究を進めて行く途中で中間発表を、また研究終了時に最終報告と成果発表を国内外の学会で行い、最終的には3年間の研究成果をまとめた報告書を作成し、学会機関誌に論文投稿も行う計画である。

4. 研究成果

挑戦的萌芽研究としての本研究の意義として次の4点が挙げられる。

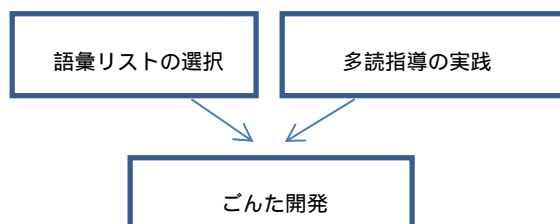
(1) パーソナライズされた語彙学習用の多読教材(ebook)が皆無であった時代にこのシステムを開発したこと。

(2) パーソナライズされたことにより自

立 / 自律学習者を支援する学習教材となった。

(3) 学習者個人にとっての未知語が既知語に変わる研究の基礎となるデバイス開発となった。

(4) 学習者にまかせられることが多い多読活動を、授業中に語彙学習を意識させながらどのように実践していくか、学習者と指導者を支援する授業方法の開発となった。



研究を通して副次的に分かったことは、学習ストラテジーは学習者の好みによって違いがあり、多読を行う場合は、机以外の場所(通学中の電車の中など)でもできるように紙の本やモバイル上で読める形式を好む学習者も多い、ということであった。今後の研究開発が望まれる。

システム「ごんた」の利点は、次のとおりである。

- 1) 学習者の未知語の割合がその場で分かる。
- 2) 既成の単語リストでなく、学習者一人ひとりの自分の未知語リスト(カルテ)が作成できる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計8件)

松林世志子、日本人英語学習者のモチベーションと英語学習方法に関する質的研究 教職課程を履修している大学生へのインタビューを通して、言語学習と教育言語学 2016 年度版、査読有、2017、71-84

山内豊、峯松信明、川村明美、西川恵、

加藤集平、語彙サイズ、認識速度、処理の自動化を測定するオンライン L2 語彙テストの開発、外国語教育メディア学会関東支部研究紀要、査読有、第 1 号、2017、1-24

Yoshiko Matsubayashi, Akemi Kawamura, An experimental system development for enhancing learners' vocabulary through extensive reading, JACET Summer Seminar Proceedings, 査読有, Vol. 14, 2016, 31-40

松林世志子、多読を通して単語を学ぶ教材開発、東京国際大学論叢言語コミュニケーション学部編、査読有、Vol. 11、2015、23-31

Yoshiko Matsubayashi, Akemi Kawamura, Joyce Maeda, Preliminary Study of Japanese EFL Learner Strategy Used to Discover Meaning in Reading, 東京国際大学論叢言語コミュニケーション学部編、査読有、Vol. 10, 2014, 69-80

松林世志子、多読を通して語彙を増やす工夫、東京国際大学論叢言語コミュニケーション学部編、査読有、Vol. 10、2014、13-24

川村明美、リスニング指導におけるキーワード識別力と内容理解度の関係、東京国際大学論叢言語コミュニケーション学部編、査読有、Vol. 10、2014、25-36

Yoshiko Matsubayashi, Akemi Kawamura, Project-Based Learning as a Source of Motivation, JACET Summer Seminar Proceedings, 査読有, Vol. 12, 2014, 52-55

[学会発表](計9件)

Akemi Kawamura, Yoshiko Matsubayashi, Gonta Ver1.20 an experimental system development for enhancing learners' vocabulary through extensive reading, 13th Annual

CamTESOL Conference, 平成 29 年(2017 年)2 月 18 日, Institute of Technology of Cambodia (Phnom Penh, Cambodia)
川村明美、松林世志子、フォニックス指導が読解・多読に与える影響 読むスピードと内容理解を中心として、JACET 北海道支部 2015 年度第 3 回研究会、平成 28 年(2016 年)3 月 6 日、札幌市立大学サテライトキャンパス(北海道札幌市)

Yoshiko Matsubayashi, Akemi Kawamura, Gonta de Tango an experimental system development for enhancing learners' vocabulary through extensive reading, 2015 JACET Summer Seminar, 平成 27 年(2015 年)8 月 20 日, 草津スカイランドホテル(群馬県吾妻郡)

松林世志子、川村明美、フォニックス指導が多読に与える影響、2015JALT Extensive Reading Seminar、平成 27 年(2015 年)6 月 21 日、西南女学院大学(福岡県)

Akemi Kawamura, The Effects of Reading While Listening plus Oral Reading Activities on Listening Fluency, Sojo University Teaching & Learning Forum (SUTFL) and Nankyu JALT, 平成 27 年(2015 年)2 月 2 日, 崇城大学(熊本県)

Akemi Kawamura, Joyce Maeda, Supporting Learners in a Reading Program: The case for explicit teaching/learning of high frequency vocabulary, International Applied Linguistics Association (AILA), 平成 26 年(2014 年)8 月 12 日, Brisbane, Australia

Joyce Maeda, Yoshiko Matsubayashi, Akemi Kawamura, A Project-Based

Workshop for Active Learning, JALT 39th Annual International Conference, 平成 25 年(2013 年)10 月 27 日, 神戸コンベンションセンター(兵庫県神戸市)

川村明美、松林世志子、ネイティブ教員による少人数英語教育とプロジェクト型学習への挑戦、JACET 第 52 回国際大会、平成 25 年(2013 年)8 月 30 日、京都大学(京都府吉田キャンパス)

Yoshiko Matsubayashi, Akemi Kawamura, JACET 第 40 回サマーセミナー, Project-Based Learning as a Source of Motivation, 平成 25 年(2013 年)8 月 22 日, 草津セミナーハウス(群馬県吾妻郡)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

川村 明美 (KAWAMURA, Akemi)

東京国際大学・言語コミュニケーション学部・教授

研究者番号：30326996

(2) 研究分担者

松林世志子 (MATSUBAYASHI, Yoshiko)

東京国際大学・言語コミュニケーション学部・准教授

研究者番号：60383163

(3) 研究協力者

服部 泰造 (HATTORI, Taizo)